

科目別分科会 第1回例会(平成25年8月27日)

科目別分科会が、第8回日本臨床検査学教育学会学術大会の期間中に開催され、同じ担当科目を持つ教員が一堂に会し、それぞれの担当科目で教育・研究等に関する議論が熱心に行われた。

以下は、当日配布された資料および各科目別分科会第1回例会の議事録である。

配布資料(作成:岩谷良則)

■ 科目別分科会 第1回例会

■ 平成25年8月27日(火)午後5時30分~7時30分

■ 設置目的:

1. 担当科目の教育の質の向上。
2. 担当科目の卒前・卒後教育の連携
3. 担当科目分野の研究の推進

■ 会場:

◎ 講義室1:臨床化学、遺伝子検査学、臨床免疫学、
検査管理総論

◎ 講義室2:生体検査学

◎ 講義室3:臨床血液学

◎ 視聴覚室:臨床微生物学

◎ 講義室4:病理組織細胞学

◎ 講義室5:輸血学

◎ 講義室6:一般検査(臨床検査総論)、
医用工学

◎ 講義室7:基礎医学、公衆衛生学

◎ 講義室8:臨床検査医学、情報科学・統計学

■ 世話人:(各担当科目分野の関連学会等で活躍されている方を例会の進行がスムーズに行くように予め岩谷の方で選出させていただきます。)

臨床化学(大澤 進)、遺伝子検査学(佐藤雄一)、臨床免疫学(米田孝司)、生体検査学〔神経生理学(依藤史郎)、循環生理学(永田浩三)、呼吸生理学(?)、画像検査学(三神大世)〕、臨床血液学(東克巳)、臨床微生物学(板羽秀之)、病理組織細胞学(鴨志田伸吾)、輸血学(細井英司)、一般検査(?)、医用工学(?)、基礎医学(?)、公衆衛生学(近藤高明)、臨床検査医学(松尾収二)、情報科学・統計学(網崎孝志)

※ ?のところは少人数なので協議して世話人を決めて下さい。

■ 第1回例会で行うこと:(◎は岩谷の私見です。)

1. 自己紹介

◎ 他の学問分野なら、自分と同じ科目を教えている人は全員顔見知りです。しかし、臨床検査学の分野は教員の名簿すらなく、みんなが集まる場もありませんでした。そこで、昨年12月に名簿を作成して会員校に2部ずつ配布しました。そして、本日の科目別分科会の第1回例会では、自己紹介をしていただき、互いにお知り合いになっていただくことから始めたいと思います。

2. 会長、副会長の選出

◎ 担当科目関連学会の役員・評議員・認定資格取得者や、担当科目分野の教育と研究にビジョンと熱意を持っておられる方がよいと考います。

◎ 将来、疾患の臨床検査診断学ができる技師を育てる必要がありますので、会長・副会長のどちらか一方は医師にするのが良いと思います。

◎ 本日、出席されていない教員の中に、会長または副会長にふさわしい方がおられる場合には、メール会議で後日協議していただき、決めていただいても結構です。

◎ 本日選出した会長と副会長は、メール会議で、本日出席されていない教員も含めた分科会の教員全員の承認を得てください。

3. 分科会で行うことのリストアップ

(分科会の間である程度同じ内容になるように後で調整させていただきます。)

1) 教育の質の向上

◎ 教員同士の意見交換を、例会及びメールで行う。

講義、実習、教科書、実習書、教材、模擬試験などの問題や、

学術大会や学会誌「臨床検査学教育」の企画・年次報告・トピックス紹介、など。

2) 卒前・卒後教育の連携

◎ 担当科目分野の学会に入会・参加し、卒後教育担当者と意見交換する場を設けるなどして連携を強化し、教育の質を向上させる。

3) 研究の推進

◎ 担当科目分野の学会に入会・参加・発表して研究を推進することにより、学会の評議員や理事等になって学会の中核となり、卒前・卒後教育の一体化を図る。そして、その学問分野の担い手となる。

◎ 臨床検査技師教育施設の大学化に向けて、3年制教育施設の博士号未取得者への博士号取得を支援する。

◎ 担当科目分野の適切な学会がない場合は、どうすればよいかもご相談ください。例えば、循環生理学の場合、同学院が理想的な認定試験を実施するので認定試験はそれでOKとすることができますが、研究発表を行い将来中核となる学会を決める必要があります。新設するののも一つの案だと思います。

4. 例会の開催時期について

◎ 日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間中

◎ 担当科目関連学会の学術集会の開催期間中(卒後教育担当者との意見交換や連携・協働を行いやすい。)

◎ 担当科目別の分科会で、必要に応じて全体のメール会議を行い例会とする。

※ 後日、例会の議事録を、科目別分科会担当の岩谷

iwatani@sahs.med.osaka-u.ac.jpまでご連絡下さい。

以下は、昨年5月に科目別分科会の設置を提案して認めていただいた内容で、これに沿って準備してきました。

■ 科目別分科会の設置について

■ 設置目的

1. 担当科目の教育の質の向上、2. 担当科目の卒前・卒後教育の連携、3. 担当科目分野の研究の推進

■ 科目別分科会の役割

1. 臨床検査関連学会での分科会例会の開催(教育・研究について討議)
2. 教育学会学術大会での分科会例会の開催(教育について討議)
3. 教育学会学術大会のプログラム企画(教育講演、パネルディスカッション等)
4. 教育学会誌の年次報告及びトピックスの掲載
5. 教科書・実習書・教育資料等の作成

■ 分科会の設置手順

1. 主要担当科目調査、2. 科目別教員リストの作成(昨年会員校に2部配布、この学会で参加者にも配布)
3. 科目別分科会の決定(関連する認定資格のある科目を中心に作る)
4. 科目別分科会の設置(会長、副会長の決定)

以下、科目別分科会議事録

1. 臨床化学、2. 遺伝子検査、3. 臨床免疫学、4. 生体検査学、5. 臨床血液学、6. 臨床微生物学、7. 病理組織細胞学、8. 輸血学、9. 医用工学、10. 基礎医学(解剖学)、11. 基礎医学(生化学)、12. 公衆衛生学、13. 臨床医学・臨床検査医学、14. 情報科学・統計学

◆ 臨床化学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日（火）午後 5 時 30 分～7 時 30 分

場 所：大阪大学保健学科学舎第 1 講義室

出席者：47 名（分科会 9. 臨床化学名簿による）

世話人：大澤 進（千葉科学大学、以下敬称略）

資 料：レジュメ（A3）

担当科目と関連学会及び学会認定専門技師資格等との関係（A4）、分科会 9. 臨床化学名簿（A4 綴）

世話人が記録係に向井正彦（神戸常盤大学）を指名

世話人の司会により議事進行

1. 会長、副会長の選出

岩谷学会会長より世話人に会長への指名があった旨発言

会長より千葉仁志（北海道大学）を副会長に指名

会長、副会長が承認

2. 自己紹介

1) 出席者が順次、施設名、氏名、研究課題を発言

2) 会場が他 2 分科会と同一講義室であったため、全員十分に聞こえなかったため、参加者は改めて会長宛に詳細をメール送信することとした。また本分科会でのディスカッションの一部について、アンケートとして併せて送信することとした。欠席者については会長からその旨連絡し情報収集し、最終的に整理したデータを分科会会員に返信する。

送信期限：9 月 7 日（土）

送信内容：氏名、所属、研究テーマ（詳細に）、所属学会

臨床化学会「臨床化学」の査読受諾の可否

臨床化学講義で「基礎」と「各論」の講義時間比率

学内実習でのガラスビペット取扱

臨床実習について（工夫している点、臨床実習施設への要望、臨床化学の実習期間）

教育学会のプログラム企画希望（テーマ）

3. 分科会で行うことのリストアップ

1) 教育の質の向上

以下、さまざまなテーマについてディスカッションし、各教育施設の現状把握を要する内容は、上記アンケートで調査することとした。

「臨床化学」

・臨床化学はボリュームが多いのでどうしても講義時間が不足傾向

・どこまで教育しなければならないか

・生化学と臨床化学の担当（一人の教員が両方担当 or それぞれ別の教員が担当）

・生化学との連携が必要

・使用実習書は、オリジナル実習書＞協議会監修実習書（医歯薬出版）

・学生自身の採血検体を使用しているか

・学内実習はどこまで実施しているか

・使用検体の入手、附属病院を有する教育施設とそうでない教育施設で大差

・使用検体の入手、卒業研究用検体の入手は倫理委員会の承認を要す

・検査の現場ではほとんど操作だけになりがちだが、新しい測定法を構築できる程度にしなければならない。従って基礎教育が重要

・臨床検査技師国家試験の合格レベルは、最低限

・国家試験問題作成委員に臨床検査技師が少ないのも問題

「臨床実習」

・病院によっては臨床化学の実習が十分にできない現状

・協議会として適切な内容を依頼し、質の担保を図る努力

・臨床実習のレベルも国家試験合格レベルから新しい測定法の開発に資するレベルまで 3 段階に分けて依頼

・望ましい臨床実習とは何か

・臨床実習施設との情報共有

・教員は積極的に臨床実習施設に向く

・臨床実習担当技師に「臨床教授」等の役職を委嘱

・附属病院を有する教育施設とそうでない教育施設の問題、とくに後者は先方病院に依存するところが大きい

・日臨技主催「臨床検査技師臨床実習指導者教育研修会」への出席施設は対応が向上

2) 卒前・卒後教育の連携

・技師会活動との共催、勉強会、実技研修会等

・今後ますます技師会との連携が必要

3) 研究の推進

・拳手により臨床化学会の会員を確認した。非会員には入会を要望

・併せて理事に就任し、運営に携わって欲しい旨要望

・臨床化学の査読委員への協力要請

・Annals of Biochemistry への投稿も

・学生の研究発表の場としても利用推進要請

4) 例会の開催時期

・本会と同時期（次期本会開催日程の中日）として会場確保の手配

・日本臨床化学会年次学術集會時に集う案も

◆ 遺伝子検査学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日（火） 17:35～19:05

場 所：大阪大学医学部保健学科講義室 1

議 題： 1. 自己紹介

2. 会長、副会長の選出

3. 実習項目の意見交換

4. その他

出席者：成田昭吾（北海道医学技術専門学校）、福島亜紀子（女子栄養大学）、井上聡子（東洋公衆衛生学院）、藤田和博（新渡戸文化短期大学）、関澤浩一（杏林大学）、佐藤雄一（北里大学）、永井慎（岐阜医療科学大学）、市原慶和（藤田保健衛生大学）、五十川團哉（京都保健衛生専門学校）、松元英理子（神戸常盤大学）、橋川直也（岡山理科大学）、松田洋和（純真学園大学）、石本佳子（純真学園大学）、青木 学（熊本保健科学大学）、高橋英吾（日本文理大学医療専門学校）

1. 自己紹介

参加者各自より、自己紹介がなされた。

○成田昭吾（北海道医学技術専門学校）：実習単位は無いが、春休みを使って実験をしている。ブタ、牛、鳥の遺伝子鑑別。

○福島亜紀子（女子栄養大学）：生化学、遺伝子検査学担当。研究、食餌因子による腸管の遺伝子発現変動。

○井上聡子（東洋公衆衛生学院）

○藤田和博（新渡戸文化短期大学）：人類遺伝学、遺伝カウンセリング。血液学も担当。研究、血液染色体、CML における BCR/ABL。

○関澤浩一（杏林大学）：遺伝子検査学担当。人類遺伝学専門。染色体解析ソフトの開発。

○佐藤雄一（北里大学）：遺伝子検査、総論を担当。教育委員長。研究、オミックス。

○永井 慎（岐阜医療科学大学）：遺伝子検査学担当。研究、プロテオーム解析から検査開発

○市原慶和（藤田保健衛生大学）：免疫学、遺伝子検査学担当。遺伝カウンセリング、カウンセリングコースも設置。

○五十川團哉（京都保健衛生専門学校）：遺伝子、情報も担当。今回、iPad を利用した授業への取り組みを発表している。

○松元英理子（神戸常盤大学）：白血病細胞株を用いた研究。

○橋川直也（岡山理科大学）：研究、分子シャペロン

○松田洋和（純真学園大学）：大学は 3 年目。法医学出身。ミトコンドリア

○石本佳子（純真学園大学）：薬学出身

○青木 学（熊本保健科学大学）

○高橋英吾（日本文理大学医療専門学校）

2. 会長、副会長の選出

会長には、北里大学の佐藤雄一先生、副会長には、新渡戸文化短期大学の藤田和博先生が選出された。藤田和博先生より、本日は欠席されているが、熊本大学の奥宮敏可先生の方が適任ではないかという意見も出され、後日、奥宮先生にお願いして、ご承諾頂ければ、お願いする可能性も示唆された。

3. 実習項目の意見交換

各校の実習の実施時期、コマ数、内容について意見交換がなされた。

- 成田昭吾(北海道医学技術専門学校)：実習はない
- 福島亜紀子(女子栄養大学)：ALDH2 多型解析。遺伝子組換え実験、GFP をプラスミドに組み込みアラビノースで誘導。6 日間。
- 井上聡子(東洋公衆衛生学院)：大腸菌よりポイル法によるプラスミド抽出。午後 2 コマなのでやりにくい。PCR を一晩で反応するなど工夫している。
- 藤田和博(新渡戸文化短期大学)：染色体検査、染色体を並べる。転座の解析。ALDH2 遺伝子解析。λファージを用いた実験。問題提示型授業としてカウンセリング実習 1 コマ。
- 関澤浩一(杏林大学)：自分で開発した染色体解析ソフトを用いた染色体検査。標準作りから行う。ソフトがないときは 50 人に一人の教員では人手が足りず、非常勤をお願いしていたが、ソフトの導入により一人でも担当可能になった。遺伝子多型解析。実習期間 5 日間。
- 佐藤雄一(北里大学)：DNA をパラフィン検体と新鮮検体から抽出、電気泳動によって差をみる。サザンブロット、RNA の電気泳動(28s、18s をみる)、PCR、p53 遺伝子産物を見る(RT-PCR)、FISH。時間は、火水木×3 週。
- 永井 慎(岐阜医療科学大学)：ALDH2 多型解析。遺伝子組換え、形質転換 mini-prep。染色体検査、G-バンド検出。
- 市原慶和(藤田保健衛生大学)：DNA 抽出後、ALDH2 遺伝子を PCR で増やし、シーケンス。アレト特異的プライマーを用いた遺伝子多型解析。サザンブロットングにより菌種の決定。個人識別。実習期間 5 日間(2~4 時間目)。
- 五十川團哉(京都保健衛生専門学校)：実習はない。
- 松元英理子(神戸常盤大学)：ALDH2 多型解析。白血球細胞を用いて、BCR/ABL 検出。染色体標本作製から G バンドの検出。
- 橋川直也(岡山理科大学)：遺伝子としての実習単位はない。生化学実験の中で大腸菌の形質転換をしている。
- 松田洋和(純真学園大学)：3 年後期、ALDH2 多型解析。ABO 式血液型多型検出。染色体検査は培養細胞より行う。RT-PCR。血痕を用いて、ヒトの DNA か他の生物の DNA かの鑑別。チトクロームやミトコンドリア DNA を用いた解析。両親と学生の DNA を用いて個人識別。ミトコンドリアとアメルゲニン遺伝子。
- 青木 学(熊本保健科学大学)：100 人を 3 グループに分けて実施。ALDH2 多型解析とパッチテストとの相関。FISH。リアルタイム PCR で検量線を書き、定量。12 コマ。
- 高橋英吾(日本文理大学医療専門学校)：ALDH2 多型解析。黄色ブドウ球菌の感染性を遺伝子で鑑別。ハイブリダイゼーション。染色大検査デモ。遺伝子組換え実験デモ。7 コマ。

4. その他

1) 教科書について

医歯薬出版の「遺伝子・染色体検査学」：改訂されず、内容が古くなってきている。マイクローレイも載っていないし、DNA 抽出、オミックス解析もない。

2) 遺伝子検査学の位置づけについて

模試問題をつくるにしても、生化学に一間、血液学に一間とやりにくい。しかし、出題基準が変更になったので、遺伝子検査学の問題が増えることが予想される。疾患と結びつけた内容はどこで出題されるのか。

3) 所属学会の確認

- ・分子生物学会
- ・生化学会
- ・遺伝カウンセリング学会
- ・電気泳動学会

- ・日本臨床検査医学会
- ・血液学会
- ・DNA 多型学会

記録：福島亜紀子(女子栄養大学)

◆ 臨床免疫学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日(火) 17:30~19:30

場 所：大阪大学保健学科学舎第 1 講義室

出席者：窪田(東京医科歯科大学)、米田(天理医療大学)、和合(埼玉医科大学)、谷口(山陽女子短期大学)、畑中(神戸常盤大学)、星野(岐阜医療科学大学)、井口(帝京短期大学)、黒田(帝京大学)、武田(北海道医学技術専門学校)、鈴木(静岡医療科学専門学校)、駒井(大阪医療技術学園専門学校)

検討結果

自己紹介

主な仕事の内容と自施設の現状を紹介し、課題について意見交換を行った。今後、交流が深まるように進める。

会長、副会長の選出

今回の出席者から、以下のように選出した。

会 長：窪田哲朗(東京医科歯科大学)

副会長：米田孝司(天理医療大学)

名簿記載の臨床免疫学の分科会の先生方に後日メールで承認を得る。

分科会で行うこと

- ・教育の質の向上
講義、実習、教科書、実習書、教材、模擬試験などに関して現状を話し合った。

今後、メーリングリストを構築し、意見交換を行う。

- ・卒前・卒後教育の連携
担当科目分野の学会などを調査してからになるので、特に話し合わなかった。

・研究の推進

臨床検査技師教育施設の大学化や博士号取得の支援に関しては、本学会の理事会等で決定してからの検討事項となる。

担当科目分野の学会には日本免疫学会、日本アレルギー学会、日本臨床免疫学会、日本比較免疫学会、日本生体防御学会などがある。

例会の開催時期

日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間でよい(不定期)

取り敢えず、次回までに実施すること

メーリングリストを構築

各施設の実習内容(オープンにして良い施設のみ、シラバスでも良い)を調査。

記録：米田孝司(天理医療大学)

◆ 生体検査学 議事録 ◆

生体検査(循環生理学、呼吸生理学、神経生理学、画像検査学)

日 時：平成 25 年 8 月 27 日(火) 17:30~19:10

場 所：大阪大学医学部保健学科第 2 講義室

出席者：40 名

会長より指名を受けた世話人の依藤史郎の司会で議事を開始した。

1. 自己紹介

出席者全員が自己紹介を行った。

2. 会長、副会長の選出

選出にあたりこの分科会では 4 つの部門があるので副会長については 4 人選出してはどうか、との提案があり満場一致で承

認され、以下の先生方に決定した。

会長：永田浩三（名古屋大学）
副会長：循環生理 三神大世（北海道大学）
呼吸生理 今井 正（香川県立保健医療大学）
神経生理 所司陸文（川崎医療短期大学）
画像検査 刑部恵介（藤田保健衛生大学）

協議事項

- 1) 教育の質の向上
今後メールを使って意見交換を行うことが承認された。
- 2) 卒前・卒後教育の連携
・臨床の現場を知ることが検査学生の教育にとって大変重要であり、教育施設と病院との間に顔の見える連携を構築維持することが不可欠である。
・医学医療はどんどん進歩変革していくので、各分野のメインの学会に参加して最先端の情報を得ることが不可欠である。
- 3) 研究の推進
・循環生理については、心電学会、心エコー図学会、などの名前が出たが、特定の学会として適当なものがない。臨床生理学会というのがあるが認定制度はないので適切ではなく、継続審議となった。
・呼吸生理についても適当な学会の名前は出なかったため、継続審議となった。
・神経生理は臨床神経生理学会があり、認定技術師の制度がある。技術講習会も長年にわたっておこなわれており、臨床検査技師の卒後教育にも配慮している学会である。但し技能試験がない点は、日本臨床検査同学院の試験で補うのがひとつの方法である。
・画像検査は超音波検査学会と超音波医学会があり、それぞれ大変有意義な学会である。二つ入っておくのが望ましいのではないか。
・臨床検査医学会や臨床検査学教育学会で発表させるのも本来望ましいが、研究レベルを上げる必要があるとされている。
- 4) 例会の開催時期について
・毎年臨床検査学教育学会学術大会の開催期間中に例会を行う。
・途中でも意見を聞きたいという場合は随時メールで連絡を取り、必要なら会議とすることもある。

◆ 臨床血液学 議事録 ◆

日時：平成25年8月27日(火) 17:30～19:30

場所：大阪大学 保健学研究科 講義室3

出席者：31名（名簿中）、6名（名簿無）（人数多数のため割愛）

1. 配布資料

1. 科目別分科会 第1回例会
2. 担当科目と関連学会及び学会認定専門技師資格等との関係
3. 臨床血液学名簿

2. 議事

1. 参加者全員の自己紹介が行なわれた。
2. 会長、副会長の選出が行なわれた。
 - 1) 科目別分科会は今年度だけであり、継続性については本学会でまだ議論の途中であるとの説明があった。これを受けて、もし学会で中止となった場合でも臨床血液学では次年度からも本学会開催中のどこかで分科会を行なうことで合意された。
 - 2) 上記のことより会長 東 克巳（杏林大学）、副会長 政氏 伸夫（北海道大学）が選出されたが、名簿記載全員が出席していないためメール審議で確定することとなった。
3. 今後、分科会で行なうことを確認した。
 - 1) メーリングリストを作成すること
 - 2) 臨地実習のあり方等の意見が出されたが、今回の短い時

間では無理があるためメーリングリスト参加者は以下のアンケートを答える形で東までメール送信していただくこととした。

- (1) 使用教科書などの教材について
- (2) 次回からの分科会開催についての是非
- (3) 次回の検討事項 など

4. 企業からのプレゼンテーション

- 1) セラビジョン ジャパン株式会社から血液細胞の教育ツールとしての紹介があった。

文責：東 克巳（杏林大学）

◆ 臨床微生物学 議事録 ◆

■ 科目別分科会 第1回例会

■ 平成25年8月27日

1. 部長 板羽秀之（広島国際大学） 副部長 藤本秀士（九州大学）が承認された。
2. 参加者の自己紹介が行われ、半数以上の方が臨床微生物学会に所属されている。認定微生物検査技師も数名取得しており、他の技師の方も今後は取得を目指していくことになった。
3. 教育用菌株の取り扱いおよび入手が困難との意見が出され、対応としては細菌学会で教育用菌株を販売しているホームページを確認するように意見があった。
4. 微生物学実習で菌株の取り扱いについて、学生などの感染を防ぐための対策をどのようにするか、またどのような内容で各施設が実習を行っているかアンケート調査を行うことになった。調査したい内容があったら、広島国際大学までメールをすることになった。
5. 協議会でメーリングリストを作成して欲しいと要望があった。
6. 研究の推進については、各施設で連絡を取り合い進めていく。
7. 例会は本学術大会で行い、集まりが悪い場合などの時は日本臨床微生物学会総会時に開催することにした。

◆ 病理組織細胞学 議事録 ◆

■ 科目別分科会第一回例会（病理組織細胞学）議事録

日時：平成25年8月27日 午後5時半から午後7時

場所：大阪大学医学部保健学科 講義室4

出席者：蒲、周東、関、島田、山本、小菅、河原、尾崎、河井、金子、柳田、松浦、森、山根、武本、鴨志田、岩井、鐵原、川中、平川、吾妻、杉島、中野、山口、北野（敬称略）出席25名

1. 自己紹介

出席者の自己紹介を行った。

2. 会長、副会長の選出

会場からの推薦により、会長、副会長、幹事2名を決定した。

会長：河原 栄（金沢大学）

副会長：鴨志田伸吾（神戸大学）

幹事：関 貴行（庶務：文京学院大学）、杉島節夫（書記：九州大学）

3. 議題

- 1) 教育の質の向上について
 - ・意見交換をメール等で行う。
- 2) 卒前・卒後教育の連携
 - ・担当科目分野の学会に入会・参加し、教育の質を向上させる。
- 3) 研究の推進

- ・臨床検査技師教育施設の教員の博士号未取得者への博士号取得を支援する。

4. 例会の開催時期

- ・日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間中に、各分野とも開催時期を固定化する。例えば、本学術大会の二日目の夕刻など。
- ・教科書、実習書、教育資料等の作成はしないが、使用している教科書等の現状調査を行う。

5. その他

- ・各校代表者を決めて、メーリングリストを作成する。
- ・高知学園短期大学吾妻教授より、日本病理学会と日本臨床衛生検査技師会が「病理認定技師（仮称）」の創設に向けて動き始めたとの紹介があった。

◆ 輸血学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日(火) 17:30～19:30

場 所：大阪大学保健学科学舎第 5 講義室

出席者：小林清一（北海道大学）、石井恭子（女子栄養大学）、木村美智代（埼玉医科大学）、鉢村和男（北里大学）、鈴木英明（北里大学保健衛生専門学院）、笠原 聡（新潟医療技術専門学校）、雪竹 潤（藤田保健衛生大学）、林 敬子（京都保健衛生専門学校）、西野康幸（日本医療学院専門学校）、北野悦子（神戸常盤大学）、土井和子（川崎医療短期大学）、中桐逸博（川崎医療短期大学）、国分寺晃（広島国際大学）、細井英司（徳島大学）、安藝健作（徳島大学）、天川雅夫（香川県立保健医療大学）、大星 航（香川県立保健医療大学）、武市和彦（高知学園短期大学）、森山良太（国際医療福祉大学）（名簿順）

1. 自己紹介

所属と主な仕事の内容、研究などについての現状を紹介し、さらに教育する上での問題点・課題について短時間であったが意見交換を行った。

2. 会長、副会長の選出

出席者から、下記の通り、会長と副会長が選出された。なお、副会長に関しては、2名での体制が望ましいとの意見があり、後日、細井と国分寺から中桐逸博先生（川崎医療短期大学）を推薦させて頂いた。また、配布された輸血学分科会名簿一覧からメール記載のあった先生方全員にメール会議にて、下記会長と副会長について承認を得た。

会 長：細井英司（徳島大学）

副会長：国分寺晃（広島国際大学）

中桐逸博（川崎医療短期大学）

3. 教育についての検討事項

1) 教育の質の向上

教育での問題点・課題について短時間であったが意見交換を行った。特に実習での検査法の統一の必要性、実習用血液の確保について話した。

2) 卒前・卒後教育の連携

今回、討議を行わなかった。

3) 研究の推進

今回、討議を行わなかった。

4) 例会の開催時期

日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間、また必要に応じてメール会議で行う。

なお、卒前・卒後教育の連携、研究の推進など分科会運営について、今後進めていくことで一致した。

◆ 医用工学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日(火) 17:30～19:30

参加者：北脇知己（岡山大学）

関 雅幸（神戸常盤大学）

野島一雄（愛媛県立医療技術大学）

議 事：第 1 回例会で行うことのレジュメに従って議事を進行了した。

1. 自己紹介

①担当科目 ②研究内容 等

2. 会長、副会長の選出

担当科目関連学会の役員・評議員・資格取得者、加えてどちらか一方は医師が望ましいと学会長の思案ですが、医用工学という科目の特殊性から医師の選出は不可能と考えます。さらに関連学会についても所属学会が多岐にわたること、今回参集した教員が 3 名ということで選出不可能という結論に達し、今回は未選出とします。

今後教員名簿を参考にメーリングリストを作成し、メール会議等を通し、自薦他薦を決めていきたい。

メーリングリストは教育協議会で作成された科目別教員名簿に従って、◎の教員をメインに作成する。

3. 分科会で行うこと

1) 教育の質の向上

・国家試験に対する意見の集約について

現在は各学校単位で意見をまとめて協議会に報告し、厚労省へ協議会の意見としているが、科目別分科会が立ち上がり順調に機能した時点で、分科会として意見を集約し、協議会に報告するという手順にしてはどうか。

・実習項目、実習形態、実習時に使用する実習書等について意見交換をしてはどうか。

2) 卒前・卒後教育の連携

積極的に ME 二種、一種（学会認定資格）の取得を働きかける。

試験の内容は、専門科目は当然であるが基礎科目も出題されているので、教育の質の向上を図ることができる。

3) 研究の推進

参加者の現在の研究内容から、担当科目分野以外の所属する学会でも積極的に発表している。

※博士号未取得者に対する取得に対する支援を行っている大学もある（岡山大学）。

4. 例会の時期

特に定例の期日を定めず、必要に応じてメール会議等を実施する。

◆ 基礎医学（解剖学） 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日(火) 17:30～19:30

出席者：加藤好光（藤田保健衛生大学）

森田城次（岐阜医療科学大学）

星 治（東京医科歯科大学）

長雄一郎（東京医科歯科大学）

協議の結果、会長は星、副会長は加藤先生に決定いたしました。

議事内容は、主に各校での解剖学の教育内容や方法に関するものでした。

教育の質の向上、研究の推進にあたってたいへん有意義な情報交換の場でした。

次回例会を、来年の日本臨床検査学教育学会学術大会開催中に行うということで意見は一致いたしました。

◆ 基礎医学 (生化学) 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日 (火) 17:45~19:20

出席者：永田良一 (陸上自衛隊衛生学校)

前田悟司 (岐阜医療科学大学)

坊垣美也子 (神戸常盤大学) (議事録)

基礎医学分科会出席者の担当科目は解剖学 4 名、生化学 3 名であった。今後の活動内容、例会開催時期等を考慮すると科目別での検討が望ましいということで、生化学は 3 名で第 1 回例会を行った。

1. 自己紹介

それぞれの担当科目、研究課題等について自己紹介を行った。

2. 会長、副会長の選出

出席者が 3 名のみであることから、会長、副会長については、生化学分科会に属する教員全体から適切な方が選出されることが望ましいとの結論となり、保留とした。

3. 分科会で行うことのリストアップ

1) 教育の質の向上

以下のような意見・問題点をあげて話し合った。

- ・臨床化学につながる科目として生化学で何を、どこまで教育すればよいのか、臨床化学を教育する側からの意見を聞きたい。
 - ・国家試験の出題数や内容から考えて、新しい知見をどの程度取り入れるべきか。
 - ・どの範囲までを教育すべきか、他の基礎医学に属する科目との分担 (ホルモンなど) はどうすれば良いか。
 - ・実習項目、教材、教授法などの情報交換をおこないたい。
- これらの意見をもとに、次の①、②の提案をまとめた。

①臨床検査技師養成における生化学の位置づけを明確にしたうえで、関連科目との連携を確認し、体系的な教育課程をどのように組み立てるか、などについて検討を行ったかどうか。

②各施設の状況 (時間数、開講年次)、科目内容、特徴や問題点を調査してはどうか。

2) 卒前・卒後教育の連携

基礎科目であり、卒後教育への関わりは限定的であると考えられる。

3) 研究の推進

研究に関する環境について状況を簡単に紹介した他は、まとまった検討は行わず。

4. 例会の開催時期について

日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間中が適当と考えられる。

「生化学」担当者には臨床の側からの者、基礎の側からの者がおり、また専門とする分野もさまざまであり、他の学会で実施するのは難しいと考えられるため。

◆ 公衆衛生学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日 (火) 17:30~19:30

場 所：大阪大学医学部保健学科 講義室 7

出席者：木田 (弘前)、久保田 (埼玉県立)、杉森 (大東文化)、澤田 (文京学院)、角野 (麻布)、木村 (北里大学保健衛生専門学校)、近藤 (名古屋)、澤村 (神戸常盤)、浦上 (鳥取)

1. 世話人の近藤の司会で、出席者の自己紹介を行った。

2. 会長、副会長の選出を行った。

会 長：近藤高明

副会長：木村明、杉森裕樹

3. 教育協議会事務局で作成・配布された「教員名簿」をもとに、分科会会員の連絡用メーリングリストの作成を行うこととし、杉森先生に管理担当いただくこととなった。

4. その後、出席者から各自が担当している講義、実習についての現状報告や教育についての意見交換を行った。

○公衆衛生学の教科書の記載内容が、法令や制度の改訂に追いついていない場合が散見される

○学外での施設見学を行う教育機関もあるが、多人数の学生をどのように引率あるいは相手方に依頼するか。

○もともと公衆衛生学が専門ではなかった教員が、公衆衛生学を担当するためにどのような工夫や努力をしているか。

○公衆衛生学は認定資格もなく、他の領域に比べるとマイナーと見られがち。存在感を示すために本協議会や関連学会で臨床検査技師が積極的な発表や独自の集会を行うことで意思統一をした。

○指定校制度についても若干の意見交換を行った。

5. 今後の分科会は、本教育協議会や関連学会、その他の協議会などの機会に出席者で行うほか、メーリングリストを活用して本日出席されていない会員も含めて意思疎通をはかることとした。

◆ 臨床医学・臨床検査医学 議事録 ◆

日 時：平成 25 年 8 月 27 日 (火) 17:30~19:30

(第 8 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2 日目)

場 所：大阪大学保健学科学舎第 8 講義室

出 席：松尾 (天理医療大学)、三善 (大阪大学)、高石 (広島国際大学)

検討結果

岩谷大会長から提案のあった「第 1 回例会で行うこと」(資料 1)に沿って、意見交換を行った。

時間のほとんどは第 1 回目で初対面ということもあり、自施設の現状や課題等を含めた意見交換に費やした。今後、以下のごとく、進めることとなった。

1. 会長、副会長の選出

出席者から以下のように選出した。

会 長：松尾収二 (天理医療大学)

副会長：三善英知 (大阪大学)

他の分科会の先生方にメールで了承を得る。

2. 分科会で行うこと

岩谷大会長の「第 1 回例会で行うこと」に提案されている、以下の 4 点について検討した。

1) 教育の質の向上

① アンケートの実施

・臨床医学および臨床検査医学の授業がどのような形でなされているか、現状把握のためのアンケートをとる。

・アンケートは最初なので答えやすいように簡便なものとする。松尾が作成してメールで行う。

・結果は、次回、例会あるいは総会で発表する。

② R-CPCの実施

・臨床検査医学の授業について、施設間差があるように思われる。

・授業のツールの一つとして総会等で R-CPC を行ってはどうか。

・事例については共有することはできないか。

2) 卒前・卒後教育の連携

今回の学会で、大会長より臨床検査関連の学会入会することの呼びかけがあったが、簡単に意見交換を行っただけで終わった。医師が多く、それぞれの専門に対応した学会に入会しているであろう。

3) 研究の推進

特に議論せず。

4) 例会の開催時期について

日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間でよいとい

う意見であった。

3. その他

指定校、承認校いずれにもカリキュラムにRI検査が含まれているが、現状に即しておらず、速やかな改正を要望する。

◆ 情報科学・統計学 議事録 ◆

日時：2013年8月27日 17:30～19:30

場所：大阪大学保健学科学舎第8講義室

(第8回日本臨床検査学教育学会学術大会)

並びにメールによる会議(2013年8月30日～9月27日)

概ね、岩谷大会長から提案のあった「第1回例会で行うこと」に沿って議論した。分科会メンバーの出席者は3名であった。

審議事項

1. 会長、副会長の選出

出席者3名から以下のように選出した。なお、他の分科会メンバーから別の候補の提案があれば、再検討を行うことを確認し、後日、メール会議で意見を募ったが、異論はなかった。

会長：網崎孝志(鳥取大学)

副会長：渡邊幹夫(大阪大学)

副会長：只野智昭(大東文化大学)

2. 分科会で行うことについて

1) 教育の質の向上に向けた取り組み。

(a) 教員同士の意見交換を、例会及びメールで行うこととした。

(b) 医歯薬出版の教科書については改訂を申し入れることとした。

(c) 学術大会や学会誌での企画等は有効な手段であり、科目分野の規模に沿った範囲での計画を、将来の検討事項とすることとした。

2) 科目関連学会と卒前・卒後教育の連携

(a) 情報科学・統計学の両科目とも、関連学会は臨床化学会、認定資格は臨床化学者となっているが、情報科学については医療情報学会と医療情報技師をあてるほうが適切ではないかとの意見があった。

(b) 検査の学生が活動しやすい学会、あるいは、卒後教育担当実務者との交流が図りやすい学会という観点からは、総合的にみて、臨床化学会が適しているとの説明があり、

概ね、了承された。(岩谷大会長を交えて議論)。

(c) 関連学会を、卒前・卒後教育の連携の場として利用することについては、統計学について有効と思われるが、情報科学についてはあまり実例が思い浮かばないとの意見があった。

(d) その後のメール会議により、情報科学科目については、関連学会(認定資格)について、臨床化学会(臨床化学者)に加えて、医療情報学会(医療情報技師)を追加することを要望することとした。

3) 研究の推進

(a) 「担当科目分野の学会に入会・参加・発表して研究を推進することにより、学会の評議員や理事等になって学会の中核となり、卒前・卒後教育の一体化を図る。そして、その学問分野の担い手となる。」という方向性に賛同した。

(b) ただし、情報科学・統計学を(利用するのではなく)主体とするようなテーマで活動を行っても、臨床化学会で一定の存在を示すことは困難ではとの指摘があった。

(c) 情報科学・統計学を研究で利用することは、たとえば、バイオインフォマティクスの必要性等を考えると、今後、きわめて重要となることが予想されるが、そのような難度の高い内容を臨床検査技師養成教育(国家試験レベル)に取り入れるのは困難である。したがって、教育内容については、現実的な路線(現状維持)と、将来を見据えた挑戦的な内容の両方を考える必要があるとの意見があった。

(d) これを受けて、メール会議により審議の結果、本分科会としては、国家試験とは別個に将来を見据えて戦略的に教育内容を強化していく方針を確認した。

3. 例会の開催時期について

(a) 日本臨床検査学教育学会学術大会の開催期間中がよいという意見もあったが、今回の例をみても、当該例会出席者は少数であろうことが予想されるため、例会はメール会議で開催し、学術大会の開催期間中は参加者が集まった場合に意見交換の場として利用するという意見もあった。

(b) その後のメール会議により、他の分科会に出席等の理由で参加できない者があることが判明したため、例会はメール会議で開催し、学術大会の開催期間中に意見交換会を設ける方式を本分科会の第一希望とした。